

米輸入と減反政策



国の指導を受けながら検討しており、早期に策定したいと考えている。

保育所の自園給食と制度改正

問 ①保育所の給食は給食センターを利用してはいるが、自園で行うべきでは。②年収によって、直接保護者と保育所が入所契約するといった制度改正をどのように受け止めているか。

答 ①学校給食の補助制度の見直しや、病院給食の値上げなど給食問題が論議されているので、しばらくはこれらの情勢を見ながら現状のまま対応したい。②年収で560万円以上の世帯は、保育所と自由に契約できるといった内容の改正のようだが、新聞等で報道されているだけなので、今後の状況を見極めながら対応したい。

問 今年の凶作により、米が緊急輸入されるが、減反政策を積極的に推進してきた町はこのような事態をどのように受け止めるか。また、今後の町独自の農業政策は。

答 先の全国町村会でも、特別決議として米の輸入自由化を阻止して、国内需給体制の確立を期するという決議を行った。今後の減反政策については慎重に対応したいと考える。

優良農地の維持や経営基盤の整備拡充、後継者の育成、農地の集団化等を図っていく。また、農家の方々と構成している稲作等経営研究会で、これからの農業経営について検討いただいているので、この答申を踏まえ、根本的な政策を検討していきたい。

草刈り条例

問 安全で快適な環境づくりを進めるには、草刈り条例を制定し、指導に応じない悪質な土地所有者には強い姿勢で望むべきでは。

答 雑草などが繁茂している空き地などは、火災や不法投棄の原因となることから、土地の所有者に適正な管理をするよう指導している。今年の指導件数は160件でそのうち100件は改善していただいた。条例については、現在県の指導を仰ぎな



施設の老朽化で年々入場者が減少する海の子どもの国

県道飯岡一宮線バイパスの見直し

問 県道飯岡一宮線のバイパス事業に進展が見られないが何か問題があるのか。今後の見直しは。

答 この事業は、子どもの国入り口から屋形橋までの1400mの区間を県道飯岡一宮線バイ

パスとして位置付け、昭和62年度から県山武土木事務所によって進められている。地価の高騰等で用地取得に困難を極めているようだが、来年度には、子どもの国入り口から400m区間の用地取得を重点的に進め工事に入る予定と伺っている。残区間についても引き続き用地取得を進め、平成8年度の完成を目途に、今後も県当局には積極的

海の子どもの国の再整備

問 町のシンボリックな施設とも言える横芝海の子どもの国は、開園後20年を経過していることから、施設の老朽化が進み年々入場者も減少している。再整備についての要望はされているのか。

答 子どもの国の施設は、海岸地域の活性化を図るうえでも再整備の必要があり、近代的な施設への改善と、通年型の観光施設整備を県に強く要望している。平成5年度の県予算への要望の際にも、子どもの国と周辺地域の再整備を要望したところでもある。

栗山川を中心とした、川づくり事業計画のなかで漁港や砂防林等の海岸周辺整備を検討しているので、これらと併せて今後も前向きに取り組んでいきたい。



来年度から工事が予定されている海の子どもの国の入口付近